

国立民族学博物館研究報告 vol.21-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	21
号	1
発行年	1996-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009187

1996—21_卷1_号

国立民族学博物館 研究報告



北タイの工場社会における権力と相互行為

——日系文具メーカーの事例から —— 平井京之介

ソニンケ社会における家族の連帯と規模

——出稼ぎをめぐる —— 三島禎子

足踏み式回転脱穀機の発明

——特許資料からみた成立前史 —— 近藤雅樹

モンゴリアの石人 —— 林 俊雄



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

21 卷 1 号

1996 年

目 次

北タイの工場社会における権力と相互行為 ——日系文具メーカーの事例から——	平井京之介	1
ソニンケ社会における家族の連帯と規模 ——出稼ぎをめぐる——	三島禎子	77
足踏み式回転脱穀機の発明 ——特許資料からみた成立前史——	近藤雅樹	119
モンゴリアの石人	林 俊雄	177
彙 報		285
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		289
国立民族学博物館研究報告執筆要領		290

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 21 No. 1

1996

HIRAI, Kyonosuke	Power and Social Interactions in a Northern Thai Factory: A Case Study of a Japanese Stationery Factory	1
MISHIMA, Teiko	Migration and Family Structures in Soninke Soci- ety	77
KONDO, Masaki	The Invention of a Pedal Driven Thresher: The History of the Invention as Revealed by Patent File Data	119
HAYASHI, Toshio	Stone Statues in Mongolia	177

彙 報

(平成8年1月～
平成8年3月)

人事異動

(行政職)

(配置換)

2月9日 管理部庶務課長 東 正憲
(上越教育大学総務部庶務課長)
群馬大学庶務部庶務課長
河野 克俊
(管理部庶務課長)

(教育職)

(採 用)

1月1日 第一研究部助手 笹原 亮二
1月16日 第二研究部助手 寺田 吉孝

(転 任)

1月1日 第一研究部助教授 岸上 伸啓
(北海道教育大学助教授)

(停 年)

3月31日 第二研究部教授 藤井 知昭
第三研究部教授 大丸 弘

(辞 職)

3月31日 第四研究部教授 友枝 啓泰
(4月1日付で広島市立大学
教授に就任)

(客員研究部門)

(任期満了)

3月31日 第一研究部教授 小谷 凱宣
(名古屋大学教授)
第三研究部教授 樺山 紘一
(東京大学教授)
第三研究部教授 赤坂 賢
(富山大学教授)
第五研究部教授 嶋 陸奥彦
(広島大学教授)
第一研究部助教授 瀬川 昌久
(東北大学助教授)
第二研究部助教授
FITZGERALD, Timothy Fellowe
(愛知学院大学外国人教師)

(外国人客員研究部門)

(任期満了)

3月31日 第五研究部教授
SHAMSUL, Amri Baharuddin
(マレーシア, マレーシア国民
大学教授)
<任期7. 4. 1~8. 3.31>
第五研究部助教授
GACHET, Nathalie
(フランス, パリ第10大学・映
画・TV・視聴覚部講師)
<任期7. 6.16~8. 3.31>
第五研究部教授 李 昆 声
(中華人民共和国, 雲南省博物
館長)
<任期7.10. 1~8. 3.31>

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
岸上 伸啓	助教授(第一研究部)	8. 1.16	8. 2.21	カナダ
園田 直子	助 手(第五研究部)	8. 1.26	8.11.25	フランス
栗本 英世	助教授(第三研究部)	8. 1.29	8. 2.26	イギリス
立川 武藏	教 授(第二研究部)	8. 1.30	8. 2. 7	インド
押川 文子	助教授(地 域 研)	8. 1.31	8. 2.17	インド, バングラデシュ
小長谷有紀	助教授(第一研究部)	8. 2. 1	8. 2.11	中華人民共和国
栗田 靖之	教 授(第二研究部)	8. 2. 1	8. 2.14	インド, ブータン王国
長野 泰彦	教 授(第一研究部)	8. 2. 2	8. 2. 7	インド

白杵 陽	助教授(地域研)	8. 2. 2	8. 2.16	エジプト, イスラエル
上杉 富之	助手(第二研究部)	8. 2. 7	8. 3.21	マレーシア
山田 睦男	教授(地域研)	8. 2.12	8. 3. 7	フランス, イタリア, ポルトガル, スペイン
藤井 龍彦	教授(第四研究部)	8. 2.12	8. 3.13	ペルー
山本 紀夫	教授(第五研究部)	8. 2.12	8. 3.15	ブラジル, ベネズエラ, パナマ, メ キシコ
江口 一久	教授(第三研究部)	8. 2.14	8. 3.20	カメルーン, フランス
栗田 靖之	教授(第二研究部)	8. 2.15	8. 2.18	イギリス
ピーター・ジョセフ・マンウス	助手(第四研究部)	8. 2.15	8. 3. 3	ニュージーランド
田村 克己	助教授(第二研究部)	8. 2.21	8. 3.22	タイ, ミャンマー
柄木田明子	助手(第三研究部)	8. 2.26	8. 4.12	オーストリア
南 真木人	助手(第三研究部)	8. 3. 1	8. 5.31	ネパール
朝倉 敏夫	助教授(第一研究部)	8. 3. 3	8. 3.18	大韓民国
石森 秀三	助教授(第四研究部)	8. 3. 5	8. 3.16	マレーシア, シンガポール
横山 廣子	助教授(第二研究部)	8. 3. 7	8. 3.18	中華人民共和国
八杉 佳穂	助教授(第四研究部)	8. 3. 8	8. 3.29	グアテマラ, ホンジュラス, メキシ コ
吉本 忍	助教授(第五研究部)	8. 3. 8	8. 3.22	中華人民共和国
藤井 知昭	教授(第二研究部)	8. 3.10	8. 3.17	中華人民共和国
吉田 憲司	助教授(第四研究部)	8. 3.16	8. 3.28	イギリス
林 勲男	助手(第四研究部)	8. 3.16	8. 3.28	イギリス
野村 雅一	教授(第三研究部)	8. 3.20	8. 4. 5	ルーマニア, ハンガリー, オースト リア
重松真由美	助手(第一研究部)	8. 3.22	8. 4.21	大韓民国
塚田 誠之	助教授(第二研究部)	8. 3.27	8. 6.14	中華人民共和国
森田 恒之	教授(第五研究部)	8. 3.29	8. 4.17	モンゴル, 中華人民共和国
朝倉 敏夫	助教授(第一研究部)	8. 3.29	8. 4. 2	シンガポール
池谷 和信	助手(第一研究部)	8. 3.31	8. 4.14	イギリス
林 勲男	助手(第四研究部)	8. 3.31	8. 5. 2	アメリカ合衆国

来館者抄

1月8日 博物館学国際交流セミナー一行
PHOAVONG, Khamphouy (ラオ
ス, ルアンプラバン王宮博物館
館長), Juanis Yugak (マレー
シア, サバ州博物館学芸員(民
族学)), SUKPRAMOOL, Pat-
charin (タイ, 芸術局国立地域
博物館課長), PHETPRADAP,
Wised (タイ, ラーチャナブリ

国立博物館館長), Wagaw
Hailu Meshesna (エチオピア,
第三地域文化振興専門官),
MENA, Juan Antonio M. (ペ
ルー, 国立博物館学芸課長(考
古学)), WANGANIGI, Paul (パ
プアニューギニア, 国立博物館
課長(動物学・自然保護)),
KIKO, Lawrence I. (ソロモン諸

- 島, 国立博物館学芸員補 (考古学))
- 1月9日 七瀬 時雄 (労働省労政局長), 室川 正和 (労働省労政局局長書記), 松崎 朗 (大阪労働基準局長), 山本 典子 (労働省大阪婦人少年室長), 桑島 靖夫 (大阪府労働部職業管理課長)
- 1月12日 NGUYEN, Van Huy (ベトナム, ベトナム民族学博物館館長), LUU, Anh Hung (ベトナム民族学博物館研究員), LE, Duy Dai (ベトナム民族学博物館研究員), Ven'ble Mynak R. Tulku (ブータン, ブータン国立パロ博物館館長)
- 1月16日 何 耀 華 (中華人民共和国, 雲南省社会科学院院長), 王 崇 理 (雲南省社会科学院総合経済研究所所長), 范 祖 錡 (雲南省社会科学院副院長)
- 1月18日 五十嵐清人 (会計検査院第四局長), 吉田 誠 (会計検査院渉外広報室国会担当専門官), 丸山 貴志 (文部省会計課総務班)
- 1月22日 PAYTON, Stephen (在大阪ニュージーランド総領事)
- 1月23日 樋口 隆康 (京都大学名誉教授)
- 1月30日 TOKITA, Alison (オーストラリア, モナッシュ大学日本文学科主任教授)
- 2月5日 大西 清 (八日市大鳳保存会会長), 藤田 直利 (世界風博物館・八日市大鳳会館館長), 鳥居 勝久 (八日市大鳳会館学芸員), 西田 紀雄 (八日市商工観光課長), 小梶 隆司 (八日市商工観光課観光係長)
- 2月8日 GARCIA, Armando (アメリカ合衆国, IBM 研究所副所長), GUPTA, Satish (IBM 研究所研究員)
- 2月13日 江 家 福 (中華人民共和国, 中国少数民族対外交流協会副会長), 王 海 清 (中国少数民族対外交流協会理事)
- 2月20日 野村 昇 ((財)大阪港開発技術協会開発部長), 大橋 清 (ふれあい港館館長), 南平 昭 (ふれあい港館副館長)
- 2月21日 韓 景 旭 (中華人民共和国)
- 2月22日 笹原 保 (東京都江戸東京博物館副館長), 谷本 信一 (東京都江戸東京博物館普及情報課長)
- 岩手県前沢町立牛の博物館一行
- 2月27日 CHIN, Kyohun (大韓民国, 韓国ソウル大学校図書館長), Kim, Seong-joong (韓国ソウル大学校図書館電算化課長), CHO, Sun-yeong (韓国ソウル大学校図書館電算化係長), PARK, Jeong-joo (韓国ソウル大学校図書館整理課日本書担当)
- 3月6日 VILINBAHOV, George Vadimovich (ロシア連邦, エルミター

ジュ美術館副館長), NECHABV, Mark Dmitrievich (エルミタージュ美術館研究員), SALDOTENKO, Anatory Vladimirovich (エルミタージュ美術館開発部長), VOITSOVA, Nina Georgievna (エルミタージュ美術館渉外担当), BUKHAEV, Yury Gbnnadievich (エルミタージュ美術館), 池田 智絵 (日本エルミタージュ基金設立委員会委員), 森田 重彦 (日本安全保障警備 (株) 国際局海外事業部部长)

- 3月10日 台湾「地方文化的資源収集及伝播」研修団一行 団長 翁 徐得 (台湾省手工業研究所長)
- 3月18日 湯下 博之 (外務省研修所長), 青山 利勝 (外務省研修所教務主事)
- 3月19日 張 蘊 岭 (中華人民共和国, 中国社会科学院亚洲太平洋研究所所長)
- 3月22日 WASI, Prawase (タイ, 地方開発財団理事長)
- 3月24日 川村 恒明 (日本育英会理事長), 堅田 徳宏 (神戸大学医学部事務部長)
- 3月25日 PRZYBYSZ, Kazimierz (ポーランド共和国, 国民教育省次官), POPTONKOWSKI, Tadeusz (国民教育省高等教育局次長), 井門 俊治 (埼玉大学工学部助教授)

「日蘭架け橋計画」オランダ博物館・美術館関係者一行 ENGELSMAN, S. B. (オランダ,

国立ライデン民族学博物館館長), Vos, R. (フリースラント州立博物館館長)

張 之 平 (中華人民共和国, 中国文物研究所古建築保護設計部副主任), 楊 新 (中国文物研究所古建築保護設計部工程師), 楊 昌 鳴 (天津大学建築学系副教授), 浅川 滋男 (奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部主任研究官), 高橋 えり子 (京都女子大学生生活造形学科講師)

- 3月26日 デーム・テ・アタイランギカーフ (ニュージーランド, マオリ女王), マハライヤ・ロバート・パキ (マオリ女王令息), ナロウ・トゥバエア (マオリ族長老), プハンガ・パトリシア・トゥバエア (マオリ族長老), ラウポ・トロア・カークウッド (マオリ族女王秘書), シラ・ルルヒラ・ヘンリー (ニュージーランド)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 21卷1号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

小 山 修 三

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

泉 幽 香

上 杉 富 之

江 口 一 久

佐々木 史 郎

清 水 昭 俊

新 免 光 比 呂

杉 本 良 男

長 野 泰 彦

林 勲 男

吉 田 集 而

平成 8 年 10 月 31 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 21卷1号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園 10-1
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.21 no.1
1996

HIRAI, Kyonosuke

**Power and Social Interactions in a Northern Thai
Factory: A Case Study of a Japanese Stationery
Factory**

MISHIMA, Teiko

Migration and Family Structures in Soninke Society

KONDO, Masaki

**The Invention of a Pedal Driven Thresher: The History
of the Invention as Revealed by Patent File Data**

HAYASHI, Toshio

Stone Statues in Mongolia

ISSN 0385-180X



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151